

越野建設株式会社

事業内容：総合建設業を軸に、独自のコンクリート技術による防音性に優れた「音楽マンション」などを展開している。

創業：113年



代表取締役社長 越野 充博さん

■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

お客様との信頼関係の構築に尽きると思います。

建設業は数字を基本に地道に積み上げ、建物を完成させる仕事です。そのため、会社の基盤をしっかりと築き上げ、ご愛顧いただいているお客様を大切にすることに注力しました。

私たちの仕事は、受注が決まった段階では設計図面以外に形がなく、20～30年経って初めて仕事の成果が見えてきます。その中で、お客様から“良い仕事をするに違いない”と信頼していただくためにも、「お客様の寵の灰まで掃除する心がけ」を大切にしています。

この精神は、祖父から父へ、父から私へ受け継がれており、本業をきちっとこなしながらも、お客様の気付いていないお困りごとさえも解決していく心掛け・考え方が、長らく当社をご愛顧いただけている理由だと思います。

■先代から受け継がれた言葉の中で、他にも印象に残っている言葉はございますか？

例えば「蟹は甲羅に似せて穴を掘る」という言葉は子どもの頃から父がよく言っていたのを覚えています。

この言葉から父が伝えたかったことは“身の丈を見定めながら、一步ずつ着実に進め”ということなのではないかと思っています。この言葉は今の経営方針にも深く影響を与えており、規模の拡大のみを目指すのではなく、会社の中身を出来る限り充実させることに

注力してきました。また、「一人では何もできない」という意識も基本にあります。建物を建てるには専門工事会社やそこで働く職人達はそのプロジェクトのために集まってくれています。だからこそ、相手をリスクとする人間関係の構築がとても大切です。

また彼らが良い仕事ができる環境をつくるというのも我々の仕事です。そういったことから作られる全体のチームワークが、品質の良いものづくりに繋がるのだと思います。

■地域に対しての想いや、向き合い方で意識されていることはございますか？

我々が仕事をするときにお客様を大切にしないことはもちろんですが、その周囲には他にも多くのステークホルダーが存在します。私は「地域」もその一つとして、とても大切に捉えています。

地域が明るく、住みやすい場所であることで、我々は良い仕事ができる。間違いなく、私たちの仕事を支える基盤になっていると言えます。

地域と交わるということは、決して地域に何かをしてあげるという意味ではなく、地域からもらえるものが沢山あると思っています。例えば、「コンクリートの日体験祭り」といった当社のイベントなどで、地域の子どもたちから年配の方まで様々な人と笑顔で触れ合った感覚は、現場に戻った従業員の工事のお声掛け一つとっても、良い変化をもたらしてくれます。私は、地域“貢献”をしているとは思っておらず、それはあくまでも結果です。一人一人が良い関係を持ち続けようと思って行動することで、良い社会が出来上がっていくものだと思います。



当社で開催した「コンクリートの日体験祭り」の様子